

ふくい経済トピックス（観光編）

「スポーツ」、「食欲」、「文化」と秋を表す代名詞はいろいろあるが、紅葉シーズンを迎え、「行楽の秋」というのも有名です。そこで、今回は観光に関連するデータを紹介していく。

〈入込数増でも宿泊は減少〉

福井県内の観光入込客数は、平成 22 年の実数で 10,626 千人と、平成 17 年以降、6 年連続して増加している。この期間は、余暇時間の増大や高速道路の休日上限 1,000 円政策などに後押しされて、県外客の着実な増加に加え、県内客の動きも活発となっている。

一方で、20 年前の平成 3 年と比べると、全体では 12.3% の増加となっているが、地域別にみると県外客が 13.6% 減少し、県内客の 51.8% 増加によってカバーされていることがわかる。

暦年別観光客入込状況（実人数）

平成	総観光客数		地域別		日程別		総消費額	
	人員 (人)	前年比 (%)	県内 (人)	県外 (人)	日帰り (人)	宿泊 (人)	消費額 (億円)	前年比 (%)
3	9,465,000	106.3	3,744,000	5,721,000	5,512,000	3,953,000	…	…
4	9,555,000	101.0	3,970,000	5,585,000	5,774,000	3,781,000	…	…
5	9,012,000	94.3	3,992,000	5,020,000	5,620,000	3,392,000	…	…
6	9,624,000	106.8	4,269,000	5,355,000	6,225,000	3,399,000	…	…
7	9,996,000	103.9	4,577,000	5,419,000	6,751,000	3,245,000	…	…
8	9,809,000	98.1	4,741,000	5,068,000	6,697,000	3,112,000	…	…
9	9,079,000	92.6	4,552,000	4,527,000	6,262,000	2,817,000	…	…
10	9,015,000	99.3	4,549,000	4,466,000	6,164,000	2,851,000	…	…
11	9,237,000	102.5	4,859,000	4,378,000	6,553,000	2,684,000	…	…
12	9,715,000	105.2	5,042,000	4,673,000	6,896,000	2,819,000	897	—
13	9,271,000	95.4	4,697,000	4,574,000	6,594,000	2,677,000	850	94.8
14	9,382,000	101.2	4,777,000	4,605,000	6,707,000	2,675,000	846	99.5
15	9,222,000	98.3	4,891,000	4,331,000	6,640,000	2,582,000	813	96.1
16	8,793,000	95.3	4,493,000	4,300,000	6,325,000	2,468,000	781	96.1
17	9,302,000	105.8	4,989,000	4,313,000	6,842,000	2,460,000	791	101.3
18	9,851,000	105.9	5,191,000	4,660,000	7,312,000	2,539,000	825	104.3
19	9,934,000	100.8	5,268,000	4,666,000	7,491,000	2,443,000	809	98.1
20	10,259,000	103.3	5,537,000	4,722,000	7,708,000	2,551,000	840	103.8
21	10,438,000	101.7	5,542,000	4,896,000	8,006,000	2,432,000	824	98.1
22	10,626,000	101.8	5,683,000	4,943,000	8,148,000	2,478,000	840	101.9

これは、宿泊者数に顕著に表れ、日程別にみると宿泊は 37.3%減少し、日帰りが 47.8%の増加と、長期的にみると、ホテル・旅館をはじめとする宿泊型観光産業にとっては厳しい状況が続いている。

〈観光消費UPに向けて〉

観光消費額をみると、平成 16 年の 781 億円を底に、増減を繰り返しながら平成 22 年には 840 億円に戻ってきている。

この消費額の試算の元になっているのが、平成 16 年に実施した観光客動向調査結果で、県内・県外客別、日帰り・宿泊別にその項目毎の消費額を示している。

最も消費額が多いのは、県外からの宿泊客で、一人当たりの観光消費額は 25,473 円に上っている。県内の宿泊客の場合は、宿泊費、土産品代、その他入場料のいずれの項目とも県外客を下回り、合計で 20,470 円となっている。

一人の観光客が消費する金額は、宿泊すれば土産品代は 2.2 倍に伸びているので、いかに宿泊につなげるかが、土産品売上を伸ばすポイントとなっている。

例えば、坂井市の東尋坊の場合、年間の訪問客数と土産品の購入代金を掛け合わせれば、最大 28 億円の土産品需要があり、観光立ち寄り回数の平均 2.38 カ所で割ると、最小でも 12 億円の市場がある。

このような視点で、一乗谷朝倉氏遺跡を見ると、最小でも 6 億円の土産品市場があると計算でき、いろいろな制約があるにしても、観光消費の地域としての受け皿整備が必要といえる。

一方で、嶺南地区では「道の駅」の入込客が最も多く、ドライブがてらに地域の農産品や加工品、名物を土産にという県外客だけでなく、地元産の実用的な商品を買求める県内客にも対応した商品構成となっていることから、観光客を地域のファン（リピーター）にしようとする取り組みが進んでいる。

一人当たりの平均観光消費額（県内消費）

発地別	日程別	全体	項目		
			宿泊費	土産品代	その他入場料等
県内客	日帰り	2,116 円	—	1,134 円	982 円
	宿泊	20,470 円	16,742 円	2,699 円	1,029 円
県外客	日帰り	4,306 円	—	2,431 円	1,875 円
	宿泊	25,473 円	18,046 円	5,316 円	2,111 円

（注）その他入場料等は、昼食代、域内交通費を含む。

一方で、その他入場料等の項目では、県内客で千円、県外客で 2 千円前後と、日帰りと宿泊で大きな差がない。つまり、観光目的地が「自然・景勝地等無料な場所が多いこと」、「自家用車での移動が多いこと」が要因として想定され、またその地でないと体験できな

い「食事」や「体験型プログラム」の情報発信が不足していることが予想される。

最近では、「着地型観光商品」の開発に取り組む地域も多く、本県においても、観光消費の向上とブランドづくりに向けた地域固有の資源を活かした観光関連ビジネスの活性化の取り組みが求められている。

〈新幹線、高速道路開通に向けて〉

県外客の発地別の入込状況をみると、平成22年では、関西地区の2,212千人が最も多く、次いで中京地区の1,256千人と続き、北陸地区は806千人で、最も人口の多い関東地区からの入込数は273千人と伸び悩んでいる。

県外客の発地別入込状況

区分	観光客数（実人数：人）				
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
関西地区	1,945,000	2,070,000	2,064,000	2,124,000	2,212,000
中京地区	1,285,000	1,318,000	1,331,000	1,330,000	1,256,000
関東地区	292,000	282,000	268,000	300,000	273,000
北陸地区	804,000	713,000	756,000	806,000	806,000
その他	334,000	283,000	303,000	336,000	396,000
計	4,660,000	4,666,000	4,722,000	4,896,000	4,943,000

現在、福井県の観光を取り巻く環境が大きな変化の時を迎えている。

平成26年度末には、北陸新幹線が金沢駅まで開業し、また舞鶴若狭自動車道が敦賀で北陸自動車道と接続されることになっている。このような高速交通体系の変化によって、関東や関西と時間的、イメージ的な距離が縮まることが予想され、これを活用した新たな観光誘客の取り組みとともに、誘引できる観光プログラムも必要となってくる。

観光は、交通、宿泊、飲食、土産品、体験・見学など、多方面にわたる産業が連携してこそその経済的な効果（観光消費）が表れるもので、それぞれの主体が魅力的なプログラムを提供できなければ途切れてしまうし、次の魅力的な観光商品を紹介しあうことが消費を高めるカギとなる。例えば、タクシーが宿泊先を、ホテルが夕食場所を、飲食店が土産品を、土産物店が次なる観光地と交通機関を紹介するなどの、つながってはじめて観光消費が拡大していくのではないか。

観光をビジネスとして考えれば、『客数×客単価＝観光消費額』であり、観光客数が増えなくても、真の満足を提供し、福井ファンをつくり消費額を高める取り組みを充実させていくことが求められている。

（福井商工会議所所報 平成23年11月号掲載）